

刊行の辞

歴史の表舞台に立つことが少なかつた、戦後／解放後初期の在日朝鮮女性たちを知る手がかりは、これまで非常に限定的であつた。とくに植民地期に日本に渡つた朝鮮女性の多くは、文字を知らないまま生涯を終えたといわれる。表象も記録もされず、読み書きを習得する機会にも恵まれないという、書かれたものの世界から隔絶された彼女たちは、帝国主義と家父長制によつて二重に殖民地化された存在であるといえよう。

旧植民地出身者、戦後日本における「外国人」、そして女性といった、在日朝鮮女性たちが背負つた条件は、言語生活、教育、表現行為、思想などで書いたエッセイ、日記、手紙、作文、詩、小説である。書き手の生年は一八九九年から一九五〇年代頃までで、成人女性、青年女性、少女たちと幅広い層にわたつてゐる。なお収録に際し、朝鮮文には日本語訳を付した。

これまで闇に埋もれていた彼女たちのライティングに光を当てることは、女たちの豊かな感情と思考が刻み込まれてゐる。

戦後日本で、冷戦イデオロギー対立にもまれながら、文字の世界から最も遠く離れた場所を生きた在日朝鮮女性たち。彼女たちは、なぜ、言葉を学び、何のために書いたのだろうか。本書に収録された作品群には、彼女たちの豊かな感情と思考が刻み込まれてゐる。

しかし実は、一般的に信じられているのとは異なり、在日朝鮮女性たちはこのようなかでも文字を学び、書いていたのであつた。本書に収録されているのは、それらの女性たちが一九四五年から一九七〇年頃まで（一世女性の日本語作品のみ一九八四年まで）の間に、朝鮮語あるいは日本語で書いたエッセイ、日記、手紙、作文、詩、小説である。書き手の生年は

一八九九年から一九五〇年代頃までで、成人女性、青年女性、少女たちと一緒に埋もれていた彼女たちのライティングに光を当てることは、さらにその言語世界も、朝鮮語と日本語がせめぎあう複雑で独特な場であつた。

しかし実は、一般的に信じられているのとは異なり、在日朝鮮女性たちはこのようなかでも文字を学び、書いていたのであつた。本書に収録さ

れているのは、それらの女性たちが一九四五年から一九七〇年頃まで（一世女性の日本語作品のみ一九八四年まで）の間に、朝鮮語あるいは日本語で書いたエッセイ、日記、手紙、作文、詩、小説である。書き手の生年は

一八九九年から一九五〇年代頃までで、成人女性、青年女性、少女たちと幅広い層にわたつてゐる。なお収録に際し、朝鮮文には日本語訳を付した。

これまで闇に埋もれていた彼女たちのライティングに光を当てることは、女たちの豊かな感情と思考が刻み込まれてゐる。



〈右は原文、左は対訳文〉

1 新家庭生活建設 — 家庭에서專制를 追い出すこと

(新家庭生活建設 — 家庭から專制を追つ出すこと) 全永徳

身代金打鉢(シンセヨリヨン)は、節をつながら語る身の上話

宋惠媛 (在日朝鮮人文学研究者)

▼収録資料 (収録資料の一部)

第1巻

一、文字の世界へ (全一五編)

新たに文字を獲得した在日朝鮮女性たちの手記や詩を収録。

子どもがいない婦人が、罪もないのに身一つで追い出されることは、実際にあることだ。今日までの民法でも、いわれもなく追出しができないようになつてゐるが、その実は、男性が一方的に勝手に追出してしまつていい。これが、男性は偉女性たちは召使ひだと考へる資本主義社会の制度だつた。したがつて、私たち女性は、三二年間の日本帝国主義の下で、男性たち以上に何倍も虐げられ抑圧されてきたのではないか。さら

そのまゝにしておわづはだ。ただ、身勢打鉢(シンセヨリヨン)は、節をつながら語る身の上話

文盲から脱した喜び 金ジョンソン『朝鮮新報』一九六五年

仕事と勉強 鄭末順『おとなの中学生』一九八二年

字をおぼえて 玄五生『オモニたちの文集』一九八四年

学校へ行きたかった 柳海慶『オモニたちの文集』一九八四年

作品を収録。 ～～詩～～の三つに分けて収録。

水爆と女性 元水愛『チンドラ』一九五四年

転落から私を支えたもの 金永淑『新しい朝鮮』一九五五年

生きること表現すること 金美好子『存在』一九七〇年

女性と職業 朴美子『統一評論』一九七八年

～～小説～～

父と私 尹ヨンジヤ『朝鮮民報』一九五七年

裏沼 安福基子『白葉』一九五九／六〇年

ウムニ (母) 廉妙達『白葉』一九六一年

第2巻

～～詩～～

風 李錦玉『民主朝鮮』一九五〇年

こだまよ、祖国に響き渡れ！ 金ヨンジヤ『母なる祖国』一九六〇年

四、学校の中の少女たち (全二二編)

小学生から高校生までの子どもたちの学校作文を収録。

第2巻の巻末に収録

在日朝鮮女性関連年表 (一九四五年～一九八〇年)

（＊印は朝鮮文、「」内は日本に関する出来事を表す）

八月一五日 李甲善『子供通信』一九四六年

学校へ行く道 金ギルジヤ『在日朝鮮児童作文集』一九五一年

わたくしたちの国語と日本語 金愛子『平和と教育』一九五三年

私達の生活 金玉子『朝教組二ユース』一九五四年

祖国のイメージがわかる 金清江『新しい世代』一九六八年

五、故郷と祖国と日本のあいだ (全二二編)

朝鮮の故郷 解放後の「祖国」、そして居住地である日本のつて書かれた作品を収録。

私のお父さんを偲んで 尹栄子『平和と教育』一九五二年

民族教育闘争とその記憶にまつわる作品を収録。

先頭で闘う女性たち 金恩順『女時報』一九四八年

私たちの学校をどのように守り、闘つてきたか 金正子『在日朝鮮児童作文集』一九五二年

戦後・解放後に日朝鮮人の教育史の最初で最大の事件である、一九四八年をピークとする民族教育闘争とその記憶にまつわる作品を収録。

父と母の遺骨をだいて 高權榮『また逢う日には』一九六一年

私の父 (詩) 金文子『遠い国でないこと』一九六六年

だいすきだった父 金君江『おとなの中学生』一九八二年

九、母 (全一五編)

さまざまな年代の女性たちが父について書き記した作品を収録。

朝鮮の母 (詩) 洪恭子『チンドラ』一九五三年

母の生涯を振り返り綴をする内容で、老年期に達した一世女性たちの作品を収録。

無題 梁丁鳳『文字をつかむ』一九七九年

オモニ 尹ヨンジヤ『学生旗』一九五四年

亡き母の思い出 崔珠子『新しい世代』一九六八年

一〇、生きる (全一〇編)

自らの生涯を振り返り綴をする内容で、老年期に達した一世女性たちの作品を収録。

高野桑子先生 (詩) 香山末子『草津アリラン』一九八四年

道 吳平寿『オモニたちの文集』一九八四年

賞受賞作品 裏 沼 (上)

沼 (下)

安福基子

李錦玉

風

宋惠媛

沼

京瀬六時前新宿の西口

京橋六時前

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼

沼